

このまちがアートになる瞬間
をカメラに収めたい――

（一社）日本写真文化協会
主催「第68回全国写真展覧会
フォトコンテスト」で、最高
賞の内閣総理大臣賞を受賞
した松浦さん。人との出会
いや地域の伝統文化を大切
にしながら、人々の記憶に残
る写真を撮り続けています。

【再び抱く撮る欲求】

薬学の博士号を持つ松浦
さん。多忙な学生時代を乗
り越え、社会人になり写真の
魅力に改めて気がきました。
「父の趣味がカメラだった
ので、一緒に撮りに出掛け
たり、写真を引き伸ばしたり
と、幼少の頃から写真に慣れ
親しんできました。しかし、
学生生活が忙しかったこと

もあり、写真活動
は一旦お休み。研
究漬けの毎日でし
た。本腰を入れ
て写真を撮り
たいと思った
のは、30代で
始めた登山が
きっかけです

ね。普段の生活では決して見
られない、自然が織りなす美
しい景色や動植物に魅了さ
れ、感動を形に残そうと活動
を再開。2015年頃からは、
伝統工芸や祭りなどを主な題
材にしています」

んを、江戸時代の僧侶・仏師
（仏像専門の彫刻家）の円空に
見立て、白黒写真3枚で表現
しました。こだわりは、1枚
ではなく複数の写真で仕上げ
たこと。その人の物語性を深
めるためです。石を彫る際に



写真家
まつうらあきひろ
松浦昭宏さん(金谷本町)

【個々の物語性を深める】
受賞作は、3枚の組み写真
からなる「石円空、彫る」。応
募総数2000点の中から、
審査員満場一致の選出となっ
たそうです。
「地元彫刻家の土屋誠一さ

隆起する筋肉、立ち上がる石
粉、虚空を見つめる静けさ。
限られた枚数の中で、いかに
そのときの光景や一連の動き
を、受け手に想像してもらえ
るかが、腕の見せどころだと
思います」

【地域の魅力を全国へ】

「このまちには、魅力ある伝
統的なものがたくさんあり
ます。島田大祭や島田鬻ま
つりをはじめとした祭事、島
田蓬菜座のような大衆演劇、
志戸呂焼などの工芸品は、そ
の最たる例でしょう。これま
で、それらに焦点を当てたも
のを含め、市内外で10回以上
にわたって個展を開催してき
ました。そして、携わる人々
の物語を多くの人に見てほし
いという思いから、個展ごと
に作品集を出しています。活
動の中心は、今も地元。これ
からも、島田で感じたときめ
きをコンテンツにして、全国
へ伝えたいですね。スマート
フォンの普及により、誰もが
手軽にきれいな写真を撮るこ
とができる世の中になりました。
だからこそ、記録ではな
く記憶に残る、アートとして
の写真を追い求める人々フォ
トグラファーとして、心揺さ
ぶる1枚を撮り続けていきたく
いです」
松浦さんは、これからも芸
術としての写真を追求しなが
ら、地域の魅力を広く発信し
ていきます。



受賞作品「石円空、彫る」の1枚
目の写真(松浦
さん提供)

Shimadajin File #124

Story 島田人

